

資料 1 1 八甫清掃センターの粗大ごみ処理施設における火災について（調書）

久喜宮代衛生組合八甫清掃センター粗大ごみ処理施設において、令和2年5月5日に発生した火災及び復旧につきまして、次のとおり報告します。

1 施設の名称及び所在地

- ・久喜宮代衛生組合 八甫清掃センター 粗大ごみ処理施設
- ・久喜市八甫2525番地

2 経過

令和2年5月5日（火）午前11時2分頃、八甫清掃センター内の粗大ごみ処理施設で火災が発生し、埼玉東部消防組合に通報後、消防により同日午後零時25分に鎮火しました。

3 発生原因

消防組合の現場検証では原因が特定できませんでしたが、火災に至るまでの経緯から推測しますと、地下に設置されている破砕機内で破砕処理された廃棄物が火災起因物（火種）となり、コンベヤにより地下から4階まで搬送される途中の2階部分で、コンベヤのベルトに引火し出火したものと考えられます。

4 被害の状況

粗大ごみ処理施設の2階部分に設置されているNo.2破砕物コンベヤ（ベルト延長43.5mのうち約8mを焼損）等が焼損しました。これにより、破砕処理の運転が不能となりました。

なお、この火災による建物への影響及び、負傷者はありませんでした。

5 復旧の対応

施設の復旧につきましては、当初、コンベヤベルトの更新期間として約7箇月（製作に約6箇月）を見込んでおりましたが、早期復旧に向け検討した結果、コンベヤベルトの焼損部分を緊急修繕（コンベヤベルトの焼損部分の修繕に必要となる14mを製作し、既設ベルトに接合）することにより、約2箇月（製作に約1.5箇月）で復旧可能と判断しまして、補正予算により令和2年5月21日に復旧工事を発注し、同年7月13日に破砕処理の運転が可能となりました。

また、今回の復旧工事では、火災に係る施設の改善策としまして、No.2破砕物コンベヤに既設されている自動散水設備に散水ノズルを2本追加するとともに、コンベヤのベルト最上部周辺を中央操作室にて監視するためのカメラを1台新設しました。

なお、工事期間中に搬入された廃棄物のうち破砕処理が必要となるものは、布製の袋に入れて八甫清掃センターの敷地内に一時保管を行うことで、対象区域であります栗橋・鷲宮地区のごみの収集・搬入につきましては、影響がないように進めました。

6 今後の対応

緊急修繕した既設ベルトは経年劣化が進んでいることから、接合後のベルトの耐用年数は2年程度と考えられるため、令和3年度の定期修繕工事におきまして、コンベヤベルトの更新を行う計画です。

また、一時保管している廃棄物につきましては、今年度、破砕処理を順次行っていく計画です。

7 復旧工事の概要

■令和2年度予算措置

- ・補正予算金額：20,000千円
- ・契約金額：15,400千円 ※契約締結日：令和2年5月21日
- ・契約金額確定に伴う差金額：4,600千円

■施工内容

項目	年度	種別	金額(税込) 期間	
施工内容	R2 (実績)	粗大ごみ処理施設火災復旧工事	(契約額) 15,400,000	
		コンベヤベルト修繕	5,945,500円	
		コンベヤケーシング交換	5,137,000円	
		天井照明器具交換(1台)	324,500円	
		火災報知器交換(3台)	474,100円	
		散水設備	交換(配管・ノズル4本)	1,005,400円
			追加(ノズル2本)	
		監視用カメラ新設(1台)	2,161,500円	
	産業廃棄物運搬・処分	352,000円		
	R3 (予定)	コンベヤベルト更新 ※定期修繕工事内で実施予定	(見積額) 14,520,000円	
合計			29,920,000円	

8 火災リスクを低減する取組

- ・手選別を行っている職員を対象とした手選別の強化
- ・運転管理者や手選別を行っている職員を対象とした研修会を実施
- ・監視機能を高めるためにカメラを1台を新設
- ・火災時の初期消火対応として、散水ノズル2本を新設
- ・分別品目の見直しの検討

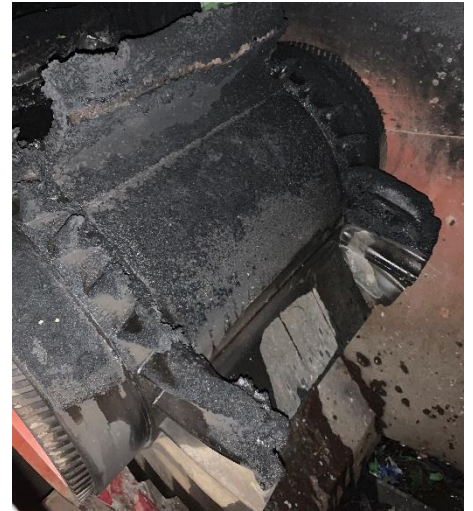
現在「燃やせないごみ」として収集している、本体内部に取り外し不能な充電電池が内蔵された製品を「充電式小型家電」とし、「有害ごみ」へと変更(令和3年度からの実施を目的)

[No.2 破碎物コンベヤ焼損状況写真]

①コンベヤ最上（ヘッドカバー）部外観



②コンベヤ最上（ヘッドカバー）部
点検口内部



③コンベヤベルト部 ※全長43.5mのうち約8mを焼損

